

令和7年度 第3回新潟市歴史博物館運営協議会 会議録要旨

【日 時】 令和8年3月5日（木）
10時00分～12時00分

【場 所】 新潟市歴史博物館本館2階セミナー室

【出席委員】 池田 哲夫 会長 （新潟大学人文学部名誉教授）
渋川 綾子 副会長 （にいがた湊あねさま倶楽部）
今井 美穂 委員 （新潟日報社）
殖栗 大輝 委員 （公募委員）
加藤 芳和 委員 （日本旅行業協会新潟県支部）
久保 有朋 委員 （古町花街の会）
中村 美香 委員 （(有)ミカユニバーサルデザインオフィス）
原 直史 委員 （新潟大学人文学部教授）
比金 克久 委員 （新潟市小中学校PTA連合会）
松井 大輔 委員 （新潟大学工学部准教授）
村山 賢誌 委員 （公募委員）

【オブザーバー】 野澤 真里子 新潟市歴史文化課 課長

【事務局】 坂井 秀弥 新潟市歴史博物館 館長
小林 隆幸 新潟市歴史博物館 副館長
吉田 英津子 新潟市歴史博物館 総務担当次長
大泉 敏一 旧小澤家住宅 館長
石田 孝子 新潟市歴史博物館 企画普及課長
森 行人 新潟市歴史博物館 学芸課長
室橋 亜衣 新潟市歴史博物館 職員

【 次 第 】

1. 開 会

2. 館長挨拶 詳細別紙

3. 議事

(1) 令和7年度事業報告

① 博物館評価の実施手順について

資料1 に沿って説明。 補足別紙

② 歴史博物館

資料2・3 及びスライドを用いて説明。 補足別紙

③ 旧小澤家住宅

資料4・5 及びスライドを用いて説明。 補足別紙

④ 重点項目についての自己点検と評価、総括

資料6・7 に沿って説明。 補足別紙

≪意見・質疑応答≫ 詳細別紙

(2) 令和8年度事業計画案の説明

資料8・9 に沿って説明。 補足別紙

(3) その他

オブザーバーより感想。 詳細別紙

4. 閉会

尚、会議後に開催中の企画展「収藏品・新収藏品展」を担当学芸員より案内した。

≪館長挨拶≫

(坂井 館長)

今年度も当協議会でご指導を受けながら何とか3月までやってこれた。昨年9月の雷雨の影響で本館は1ヶ月休館し、今も旧税関庁舎の内部が公開できない状態となっており残念だが、そういったことを除けば順調に運営できたのではないかと思っている。従来なかった試みとして、今年度から本格的な評価の実施を進めてきたが、本日はその点をご説明させていただく。

この日曜日、上越市で本長者原廃寺という奈良時代の寺跡の報告会があった。40年以上前に私が県の職員だった頃に発掘調査をしていた今池から数百m離れた位置で、国分寺と考えられる跡があり、昨年度から2か年で発掘調査をしていたもの。現況は一面が田んぼで、とてもそのような寺跡がある場所とは思えない。私の個人的な意見でもあるが40年前の想定通り、越後の国分寺と考えてほぼ間違いのない寺跡が見つかり、来年度以降も発掘調査が進むことになった。私としては胸がすっきりしたような出来事だった。「新潟には歴史が何もない」と言う人もいるが、きちんと調査すると明らかになることも多い。半世紀近く新潟県内の発掘調査を見てきて、つくづくそのように思っている。

本日はよろしくお祈りします。

≪(1) 令和7年度事業報告≫ 補足

① 博物館評価の実施手順について

(吉田 総務担当次長)

評価の記入にあたり個別の質問やご不明点があれば事務局へお問い合わせを。

② 歴史博物館

(小林 副館長)

- ・指2-② 有料企画展で5000人以上が来場するのは久しぶりである。
- ・指2-③ 休館期間を割り戻しすると、本来なら9800人程の来場者が見込まれた。
- ・指3-⑥ 旧在郷町のまちあるきは各回20名が参加。
- ・自主2-① 52人が参加し、受講料は自主財源に充てられている。
- ・自主2-④ 特別講演会では地域の歴史にとらわれない幅広いテーマを設定し

ている。

③ 旧小澤家住宅

(大泉 旧小澤家住宅館長)

- ・指2-② 4/20 講演会は28名が聴講し、古文書講座は22名が聴講した。
- ・そのほか、4/26には立川志の彦落語会を、11/3は他団体と連携し「湊下町展」町灯篇を開催した。

④ 重点項目についての自己点検と評価、総括

(森 学芸課長)

博物館法が改正され、近々博物館の設置及び運営上の望ましい基準が設定される。活動評価についてもそういったことを踏まえて、今まで取り組みが十分でなかったところや今後力を入れていくこと、新たにもとめられる役割について取り組んでいくための中期計画として目的を設けた。そういった観点で評価をいただけるとありがたい。

《意見・質疑応答》

(原 委員)

重点項目③について。令和6年度比では格段の進歩が見られるが、アーカイブとは何かを考えたとき、所蔵資料の全体像が示せるということが本当のアーカイブであって、まだ現状は見て楽しんでもらえそうなものを公開しているという状況に過ぎないのではないか。これは研究者の立場からではあるが、市民も含めて検索してどんな資料があるか見れるものでないとアーカイブとは言えないのではないか。これは大変な作業で難しいが、そういった観点でアーカイブ化を位置付けてもらえないかなと思う。

1点質問で、新潟県立文書館の検索システムには歴博が所蔵している古文書資料等もヒットするが、ここには全点掲載されているのか。それとも一部だけか。

(森 学芸課長)

全点ではない。市史編纂のときに郷土資料館資料を調査して、簿冊があるコピーが文書館でデータベース化されている。

(原 委員)

かつて市役所分館の部屋にあった、複製があるものについて、文書館に移管されてデータベース化されているということか。

(森 学芸課長)

そのデータベースが基本となり、その後の継続調査も進んでいるはずなので、そのプラス α 分もあるとは思う。

(原 委員)

例えば沼垂町役所文書や新潟町会所文書などの全容がわかる目録は、旧来の紙目録はあるのかもしれないが、電子化はまだということによろしいか。

(森 学芸課長)

紙目録のあるものは何らかの形で入力済み。それ以外については全てではないが電子化が進んでいる。それらを内部データベースに一元化することが未着手である。さらに公開へのフローを進めるにあたり、内部データベースに公開データベースを重ね合わせることにインテンシブを置いている。公開データベースに向けては、館内部の事情で動いている側面がある。

(原 委員)

全体像を見たいというのは、当面は研究者でしょうから、歴博に問い合わせのうえ検索ができれば要は足りるという風には考える。公開できるもの・できないものがあるとは思うが、将来を考え、歴史遺産を市民のものにしていくには、目録情報くらいは一般の人にもウェブ上で目にできるようなことを、究極的には目標として掲げていただきたい。

(松井 委員)

重点項目②について。資料 p.19 評価指標欄の「連携した学校連携の回数」はどのようにカウントされているか。もっと数が多いのではないかと思うが、それならば評価も上げやすい。

また p.20 の課題欄で「高等学校以上の学校との接点・希薄さがある点が課題」とあり、次回展望欄には「柳都中学校に働きかけて、」とある。働きかけの対象

が課題とリンクしていないように見えたが、何か意図があれば教えて欲しい。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

施設の設えに関する連携のみを数えたため、少なくなっている。例えば「旧小澤家住宅の歴史的町並みを考える会」との連携を数えると、毎月実施しているため 10 回以上になる。今後、周辺地域との連携についても数えて良いという解釈であれば検討したい。

(松井 委員)

回数の数え方の定義を明記していただきたい。評価軸は回数だけではないと思うが、当初の目標より数が増えることは、評価の対象として大きな根拠となるので、ご検討いただければと思う。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

今回は施設の設えに限定したが、実績が大きくなると、次年度はもっととなりがちなので、また検討したい。

小学校とは体験授業、中学校とは町屋体験を実施したが、もう少し注力したいと思っているところ。高等学校以上の学校との希薄さという課題はあるが、次回展望の裏にあるのは、来年度に大学とインターンシップを検討しているため。いろんな大学に働きかけて、当館でできることを PR して連携ができればということでこのような記載になった。

(松井 委員)

高等学校以上というところが専門学校に繋がるということで理解した。

(久保 委員)

重点項目①について。資料 p.18 の成果欄には、てしごどものづくり展での職人との連携や大新潟映画展覧会での地域連携など、展覧会関係の地域連携が含まれていないように感じるが、p.17 の数値としてはいかがか。

(小林 副館長)

含んでいない。多様な主体との連携を、どこに線をひくかはかなり悩むところ

だが、従来の教育機関や歴史文化との連携、また企画展で当方から依頼した連携については含めていない。博物館活動以外のところに何らかの成果を求める連携について多様な団体からの依頼があったものを入れた。例えばタクシードライバー向けの研修を実施することにより、観光分野を進歩させていくための連携などである。

(久保 委員)

p.31 博物館の総括評価では全体の成果欄にもものづくり事業者との連携の記載があるが、これは企画展関連イベントではないものか。

(森 学芸課長)

私が p.31 を作成したが、p.17 に企画展関連イベントも含めていると読み誤っていた。申し訳ありません。

(久保 委員)

では小林副館長の説明のとおりということで了解した。

質問をもう一点。p.18 の課題欄で旅行業者と連携が実現しなかったとの記載があるが、差し支えなければその背景や課題を踏まえた別の可能性があれば教えて欲しい。

(小林 副館長)

まちあるき企画を旅行商品にできないかと旅行会社に打診したもの。コロナ禍においてはマイクロツーリズムが流行したが、現在は再び有名どころを巡るようになったそう。それに比べてまちあるきは土産物店や食事処に行くわけではなく、手間がかかる割に利益が少ないとのことで実現しなかった。大型バスを停める場所や待機場所など、細かい調整が必要で大変だとのこと。これを定番商品化できればやり方はあるように思う。

(久保 委員)

全国的に見てやっている旅行会社があると感じていたが、時代的にマイクロツーリズムから戻ってしまったという点はなるほどと思った。一方で、地元密着型でやろうとしている会社もあるのではないか。今後は旅行会社との連携はな

かなか難しいとはいえ、これで全く止めるというわけではないということでしょうか。

(小林 副館長)

はい。

(久保 委員)

ありがとうございます。

さらにもう一点、p.18 の次回展望欄の連携の間口の拡大について、福祉分野での連携を進めるという点は非常にいいと思う。重点項目④インクルーシブな視点での改善も進めているなかで、連携を通じてインクルーシブな視点の新しい発見の機会に繋がるのではないかと思った。あまり重複した記載はしない方がよいかもしれないが、二つの重点項目が別個で動かずうまく連携できるとより効果的ではないか。

(中村 委員)

まちあるき企画の連携が実現しなかった点は非常に残念だが、まちあるきを常に企画している者としてその手間はよく分かる。例えばJRは大人の休日倶楽部でまちあるき特集をずっと組んでおり、コアな客層を掴んでいるよう。全国から行きたいなと思わせるものがあるので、JRや当地の旅行会社、観光政策とも連携しながらどのように誘導するとよいのか相談する場を設ける作戦がよいと思う。大型船やASPACなどで多くの方が来県する際も、新潟でお金を使っただけでなく、新潟に湊町の印象を持ってもらう受け皿づくりとして、自分たちだけでなく、地域の資源をつなげる役割に徹し、あとは場をつなげたい人たちに委ねるしくみもあり。

重点項目④・⑤について、今期はできなかったと思うが来期は両館ともどのような障がいの方が来館するか、どういう対応が可能・不可能かという点がわかると随分変わると思う。歴博で現在製作している映像には字幕や手話通訳が付くのが気になる。

さらに、来館時は必ず受付の方がいらっしゃいませと声をかけてくださる部分も評価項目に入れていただきたい。ウェルカム状態でホスピタリティ溢れる館であることを評価項目に組み込み、職員のやる気を高めたり新潟の印象を良

くしていくことができるのではないか。実は明日、歴博を会場に心のバリアフリー研修を開催予定で、認定マークに値する施設になるためにはどのようにすればよいかお話しする。いきなり職員に趣旨を言っても分からない・発想が至らないこともある。もしかすると小学校の先生の方が福祉の分野に詳しいかもしれない。私自身は国立博物館に行って勉強してきたが、とても2時間では足りない程だった。全国的に認定マークを付けていくということだが、職員も県外他館に行き、自館と全く違うサービスの提供があるはずだという目で見ることが必要。毎日がイベントのようで業務に追われていることも承知しているが、インカムがないとできないこともあるので、その点を充足していただけるとよい。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

大人の休日倶楽部は私も加入しており、そこで得られる情報は職員に提供している。またJRの駅たびコンシェルジュに当館の資料を送っており、連携を図っている。館が小さいので頂いた情報はだいたい網羅している。さらに接遇的な面でも積極的に企画展の内容を案内したり努力しているので、参考にさせていただく。私も県外の類似施設に行くことがあり、自館の方がサービスが良いと自負しているところだが、このような意見を委員からいただいたので、今後も努力を重ねていきたい。

(村山 委員)

職員の負担と取組みの割合はどのようなのか教えて欲しい。目標があつてやらないといけないと思うが、職員も仕事を抱えており難しいところがあると思う。守秘義務や機密情報の問題もあるかもしれないが、例えばSNS発信をボランティアの方にやっていただく等、周囲の連携者に協力してもらうことで補うこともできるのではないか。市の施設でも県の観光協会との連携は難しくないと思うが、知恵を借りるとか。私も市の広報を見てまちあるきに参加するが、そういった団体との連携もありかと思う。例えば外部の目線を持った学生に情報発信をする機会をあたえていただくとか。

アーカイブの話も出たが、私からするとTeamsなどの機能を使って講座を録画してアーカイブにすることを考えて欲しい。かっこよく編集する必要はないと思う。八尾市立しおんじやま古墳学習館はYouTubeで無料講座をやっていて私も時々観ており、コロナ禍からの来館誘導ではあったが今も継続している。全

部ではなく小出しにしていく手法もあるので、検討してもらいたい。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

当館については4人の職員がおり、全員が揃うことはあまりないが、人員的には足りている。SNS発信についても現状のスタッフでできている。また既に簗戸の入替えにおいて大学生との連携も進んでいるし、ボランティアガイドがおり語学が堪能な方もいるためその方々の活躍も図っている。いまのところボランティアにSNS発信を担っていただかなくても間に合っているというのが現状。

(森 学芸課長)

歴博では外部委託ではなく相互にメリットのある連携を取り組んでおり、それを増やしていきたいと考えている。例えば新潟大学の博物館に関わる野外実習のカリキュラムを活かして、未整理の資料を整理していただくなど、相互に実のある形の連携がある。

≪ (2) 令和8年度事業計画案の説明 ≫ 補足

(小林 副館長)

令和8年9月から空調設備の工事を実施するため本館が休館する。

- ・指1 「(仮称) ウェットランド新潟」は11月の世界湿地都市ネットワーク市長会議までに、「(仮称) 水が結ぶ新潟」は令和9年3月末までに完成予定。
- ・指3-④ 博物館講座は9月以降は市立中央図書館に会場を移して開催する。館長講座は他施設を連続して確保することが難しいため、回数を減らして開催する。
- ・指4-③ 休館を予定しているため、どのように事業を継続するか今後検討する。
- ・指6 休館を予定しているため、資料収集は少しセーブしながら事業を行う。

(大泉 旧小澤家住宅館長)

- ・指1-① 企画展に関連しては初の試みとなる2つの講座を予定してる。
- ・指2-② 庭園講習会は広報に努め、せめて1回は開催したいと考えている。

◀ (3) その他 ▶

(野澤 歴史文化課長)

歴博においては「戦場の町と村 新潟市と戊辰戦争」展で有料企画展にも関わらず 5,000 人を超える多くの人に来ていただけた。一方で毎年多くの親子連れにご来場いただいている「むかしのくらし展」については落雷で設備が故障したことによる休館の影響によって会期が 1 ヶ月短くなったということで例年よりも少ない観覧者数となった。市において設備の修繕に時間を要したことをお詫び申し上げます。またひどい雨漏りによりお客様にご迷惑をお掛けしているところだが、3 月中には修繕を完了する予定である。職員には日々の雨漏り対応を、年末年始にも対応いただき感謝申し上げます。開館から 20 年経過する中で劣化も進行し、施設運営に迷惑をお掛けしているところだが、日々工夫をして開館していただいていることに感謝申し上げます。

旧小澤家住宅においては魅力的な企画展のほか、地域の方々と連携し季節の催しなどをきめ細かく開催し、新聞やテレビなどのマスコミで取り上げられるなど来館者数向上への PR に努めていただき感謝申し上げます。

指定管理については市の 12 月議会で可決されたため、令和 8 年 4 月から 5 年間は引き続き財団に両館の指定管理をお願いすることになった。どうぞよろしく申し上げます。

今後も運営協議会の委員の皆様には忌憚のないご意見をいただき、両館が新潟市の大切な文化財を次世代に引き継ぐとともに、新潟市の歴史文化の魅力を市内外に伝えていけるよう、引き続きご意見・ご指導よろしく申し上げます。

以上